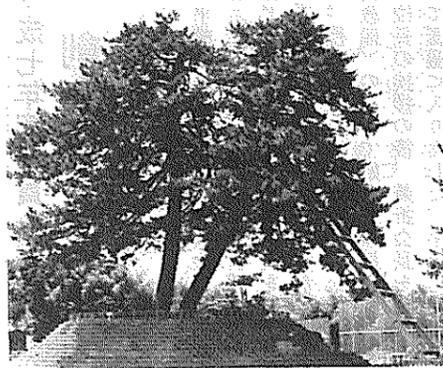


双松会会報

第16号(「双松会」通巻21号「松高北高同窓会報」通巻21号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL ⑩4888-⑩0655
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ⑩3000



この度の阪神大震災で罹災なされた方々に心からお見舞い申し上げます。力強い復興の雄音も聞こえてまいりますが、一方ではなかなか被害の痛手から逃れられず精神的にも肉体的にも苦勞を続けていらっしやる方も多いと聞きます。

お見舞い

どうか双松会会員の皆様方には健康にご留意なさいまして、一日でも早くご回復、ご活躍なさいませうよう衷心よりお祈り申し上げます。

双松会役員一同

ご挨拶

会長 兼 折 博



二十一世紀を眼前にしながら、今年には少々残念な年になったようである。年頭早々阪神地区を襲った大震災は、まことに青天の霹靂、夢想だにできなかった大惨事だった。ご被災の会員の方々にはむろんのこと、同地区ご在住の会員各位には、心からなるお見舞いを申し上げたい。さらにまた、破防法の適用までが議論に上るような宗教団体の暴走。何ともやりきれないことだが、これも東京や関東地区ご在住の会員各位のご不快ご憂慮は格別のものがあつたらうと思ふ。併せてお見舞い申し上げます。

上からも、社会的な活動の立場からいっても、現在、会員の中枢を占めるのはやはり川津校舎出身の会員である。だが学んだ校舎は今ではなく、校地も昔日の面影を止めるものは殆どない。赤山が、双松に昔の姿はないけれども、緑いよいよ深く絶好の「学び」の環境になっているのにくらべ、痛恨の思いもある。現在県立ブルー東入口の近くに、そこが松高、北高の故地であつたことを示す碑が置かれている。が人目にふれやすい場所ではない。今年度の役員会(各期の幹事全員出席の総会に代る集会)の際に、もっと分りやすいところに移してほしいという意見が出た。川津校舎で青春を送った会員には、無理からぬ気持ちでもあろう。来年は創立百二十年にあたるが、そんなこともあって旧川津校舎跡地に近い「くにびきメッセ」(島根県立産業交流会館)で記念の集会を、という話も出ている。あれは川津校舎の川向うにあつた市立二中の跡地に建設されたものである。時の移るの早い。昨年は松高四期生の、今年も五期生の卒業四十周年記念同窓会に招かれた。還暦記念集会ということでもあった。教室で顔を合わせていたのが、とてもそんな古いこととは思えない。意外といった思いが深かった。逝くものはかくの如きか、昼夜を

ご挨拶

校長 藤 木 敦



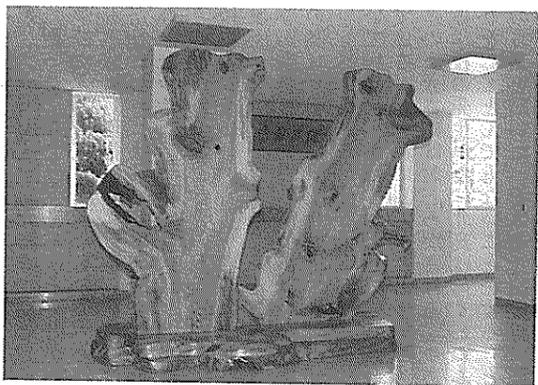
双松会会員の皆様には、御健徳で御活躍なさっておりますことを心からお慶び申し上げます。また、松江北高校に對しまして陰に陽に御支援を頂いておりますことに感謝致し、厚く御礼を申し上げます。お陰様で、生徒達は「文武」の両面にわたり逞しく活躍しており、有難く存じております。例えば、今春の大学等への進学的好成绩、高校総体での連続総合優勝、また定期演奏会も市民の皆様から好評を頂いております。さて、今年には戦後五十周年に当たる節目の年であります。戦後、我が国は驚異的な進展を遂げましたが、その栄光の歩みにも、反面には影の部分も付随して思われます。時代は風潮として米国的な民主主義の理念としての個人主義が尊重されてまいりました。そのあまりに、国家、地域社会、家族等といった共同体についての関心を希薄化させ、社会や他人のために尽くそうとすることに意義を求めざる生き方が、軽視されて来たとの指摘もあります。

だ双松会が、卒業生集団として「あきらみ」ばかりでなく、できるだけ生きた交流のある集団であるよう、会員の皆さんと共に努力したいと思ふ。

しているからであります。明年度には、本校創立百二十年を祝す記念行事を行うための準備を進めているところであります。双松会におかれましては、記念同窓会総会が開催される運びでございますので、手を携えて意義のある素晴らしい催しにしたいものと願っております。何とぞ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

『双松を偲ぶ』

先年2本松の一本が枯れましたが、その幹の部分加工して作られた新しい衝立が玄関に置かれました。以前に置かれてあつた輪切りの衝立は起雲館4階へ移されました。



双松会名簿発行(八月)

残部がありますので購入を希望される方は次までご連絡下さい。はがきかファックスでお申し込み下さい。価格は五、〇〇〇円です。

〒690 松江市奥谷町一六四
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局宛
FAX 〇八五二二一四九七七

